

10

排水管の劣化調査・補修

排水管の劣化というと、管材が腐食して「強度的に劣化」したものと、配管内に多量のグリスやヘドロが付着堆積して排水不良となった「流下機能の低下」があります。

これらの劣化調査は、調査目的と現場状況によってそれに適した方法で行い、それぞれ資料写真を添付した報告書を提出します。

(1) ファイバースコープによる調査

排水口からファイバースコープを挿入して内部を観察、付着物による閉塞状況から清掃実施の時期決定の参考にし、また錆の発生状況から腐食の進行程度を推定します。

(2) 超音波厚さ計による調査

超音波厚さ計を使って現在の残存肉厚を計測、経過年数から残存寿命を推定します。

(3) X線による調査

配管の調査箇所にX線を照射し、その裏側にセットしたフィルムに写った画像から残存肉厚を測定、また画像の濃淡によりグリス等による閉塞の程度を推定します。

X線の取り扱いは有資格者が行い、調査中半径5m以内は立ち入り禁止となります。

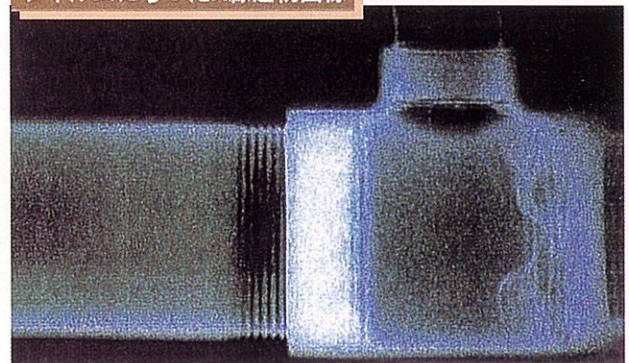
(4) 抜管(ばっかん)による調査

配管の一部を約30cm切り取り縦に二つ割りにして内部を直接目視、その後酸洗いして付着物や錆をきれいに落とし、管の地肌を露出して観察、腐食のひどい部分の残存肉厚をポイントマイクロメータで計測し、残存寿命を推定します。

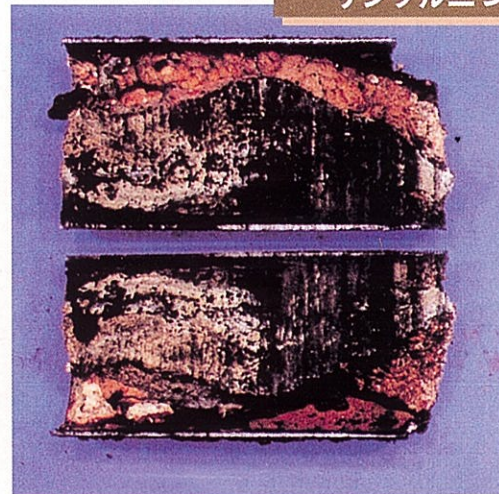
超音波厚さ計による調査



フィルムに写ったX線透視画像



サンプル二つ割り



計測ポイント

